

## 社外プロのおかげで「DXは他人事ではない」と意識が変化！地域密着型の印刷企業がデジタル化で働きやすい環境作りに挑戦（株式会社サイラン）

静岡市では、デジタル技術を活用して業務変革を目指す市内中小企業を支援する「中小企業等 DX 支援事業（以下、本事業）」を実施いたしました。本事業は、株式会社ビザスクがマッチングする各企業の事業領域・課題に最適な社外プロ人材が伴走支援することで、参加企業にとって実行可能かつ持続可能な取り組みを目指すものです

今回は株式会社サイランの取り組みについて、本プロジェクトの推進メンバーの取締役総務部長 新庄静代様、総務部 福嶋成美様にインタビューしました。



推進メンバー

Q 御社の概要をお聞かせください。

当社は創業明治 38 年の総合印刷関連企業です。創業以来の主軸は印刷工程における製版事業ですが、加えて現在はデザインやweb制作、広告代理業、出版業まで幅広く携わっています。

また、大道芸ワールドカップのガイドブック作成や地域を盛り上げるイベントサポートなど地域密着型の業務も行っています。



外観写真

Q 本事業に参加された経緯を教えてください。

静岡市主催のプレセミナーにて、地方中小企業における DX 推進の具体例や専門家の実践的なお話を聞き、地に足のついた DX 像をイメージできました。次第に「DX は他人事ではない」と感じるようになり、大変興味が湧いたので参加を決めました。

Q DX の目的をどのように捉えられていますか。

従業員にとってより働きやすい環境にすることです。  
製版業務は元々PCで行っていることもあり、デジタル化と相性が良く比較的進んでいると感じますが、バックオフィス業務はまだ改善の余地があると考えています。最終的にはデジタル化を通じて、個人の技術や知識だけに頼ることなく従業員が業務を補完し合えるような「作業の標準化」を目指しています。



社員写真

Q エキスパートの決め手を教えてください。

DX にあまり取り組めていなかった当社を否定せず、現状を受け止めた上で親身に話を聞いてくださったのでこの方に決めました。

また、支援いただいたエキスパートは最初に参加したプレセミナーで登壇されており、考え方や話し方などに安心感があったことも決め手でした。

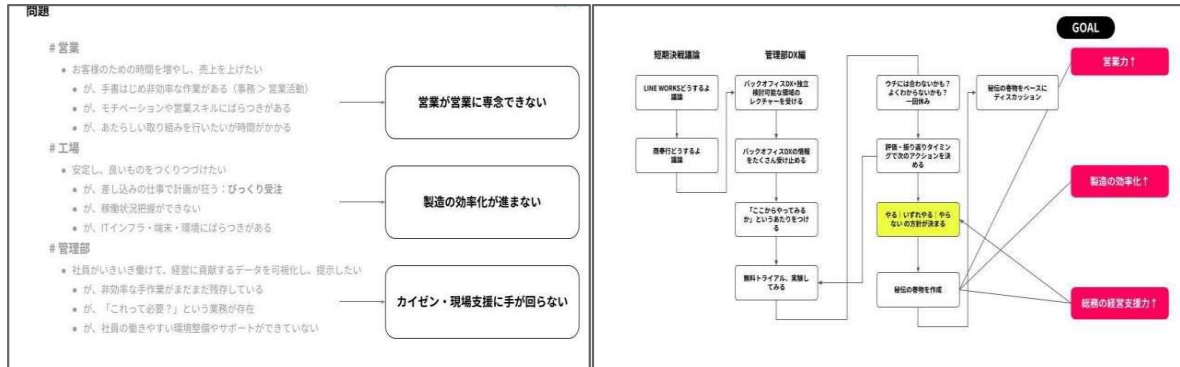
Q 本事業における具体的な取り組み及び成果を教えてください。

大きく分けて 2 点あります。

1 点目は、DX の基礎的な知識の習得です。普及している IT ツールや他社のチャレンジを知ることで DX 自体を「当社も取り組むべきもの」と身近に、そして前向きに捉えるようになり今後の選択肢を増やすことができました。

2 点目は、エキスパートのおかげで問題解決のメソッドを身につけることができました。問題に行き詰まると実現を阻害しているものを細分化し、本来の目的に立ち返って検討するという考え方です。

実際に、このメソッドを活かして社内チャットツールの普及を実現しました。目的を考えながら現場ヒアリングを行い、従業員に求めることを社内に発信することで会社全体を巻き込むことができました。さらに、新しいシステムは導入するだけでなく、導入後の運営・維持が大切だと学びを得ました。



専門家との議論資料

Q エキスパートによる支援の感想をお聞かせください。

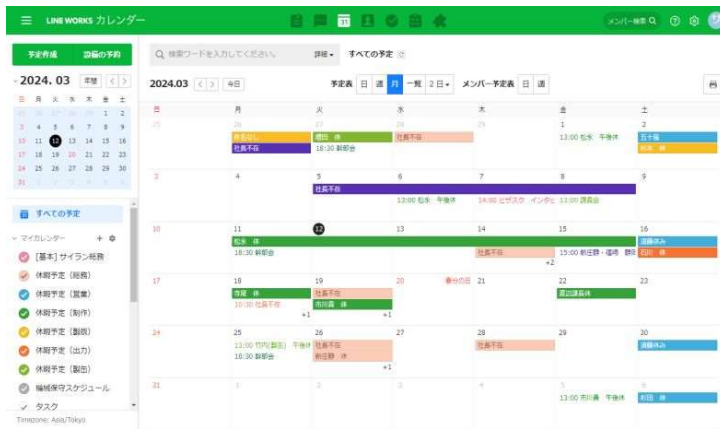
社外の方とのやり取りによって、現在の働き方の主流や世の中の動向を知ることができ、とても良い機会でした。社内で凝り固まっていた部分に対してエキスパートから疑問を投げかけていただくことで、当社の考え方を見つめ直すきっかけになりました。

また、自社メンバーだけだと継続が難しかったところを、コミュニケーションツールである Slack にて常時、エキスパートの方とつながっていたことによって、常に頼ることができる安心感があり、いま DX に取り組んでいるんだという意識を途切れさせずに保つことができたことも今回の支援の大きなポイントだったと思います。

Q 最後に、今後の展望を教えてください。

今ある当社にとって大切な部分は守りつつ、時代の流れに乗って必要な部分は改善していきたいと思えます。そのために業務の標準化にこだわり、それぞれの部署でマニュアルを作成し、それらを浸透させることに努めます。

また、情報の共有を促進するために、勤務が本社か現場かに関係なく社内で起こっていることを全員が把握できるような環境作りに取り組みたいです。



プロジェクト中に導入したLINE WORKS でのスケジュール共有画面